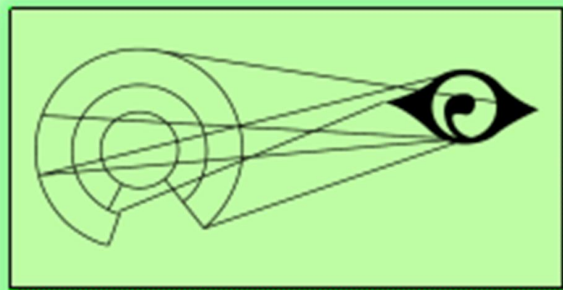


# 令和7年度（2025年度） 第1回共同研究推進委員会



期日 令和7年5月13日(火) 13:00~16:30

北海道教育研究所連盟  
共同研究推進委員会

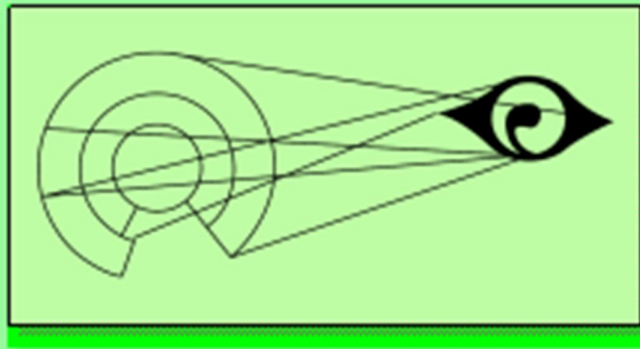
【開会】

事務局長挨拶



## 第1回共同研究推進委員会の目的

北海道教育研究所連盟に加盟する各教育研究所や研修センターの研究成果を交流するとともに、研究主題に係る研究協議を通して、北海道教育の充実・発展に資する。



## 第18次共同研究推進委員 自己紹介

- 石狩教育研修センター
- 空知教育センター
- 檜山教育研究所
- 胆振教育研究所
- 十勝教育研究所
- 上川教育研修センター
- 留萌管内教育研究所
- 根室教育研究所
- 札幌市教育センター
- 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター
- 各機関から1名
- 北海道立教育研究所から2名

### 自己紹介

- ・お名前
- ・所属と学校名
- ・担当学年や教科
- ・研究所、センターでの業務内容
- 等

## 共同研究推進委員会役員選出

- 石狩教育研修センター
- 空知教育センター
- 檜山教育研究所
- 胆振教育研究所
- 十勝教育研究所
- 上川教育研修センター
- 留萌管内教育研究所
- 根室教育研究所
- 札幌市教育センター
- 北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

各機関から1名

- 北海道立教育研究所から1名

## 本日の内容

### 【説明・協議1】

- 第18次共同研究の概要について
- 目指す授業の方向性について

### 【説明・協議2】

- 第18次共同研究3年次に係る業務推進について
- 実践事例の作成にあたっての精査の視点について
- 第18次共同研究の今後の方向性について

### 【連絡・閉会】

- 第2回共同研究推進委員会について

# 本日の内容

## 【説明・協議1】

- 第18次共同研究の概要について
- 目指す授業の方向性について

## 【説明・協議2】

- 第18次共同研究3年次に係る業務推進について
- 実践事例の作成にあたっての精査の視点について
- 第18次共同研究の今後の方向性について

## 【連絡・閉会】

- 第2回共同研究推進委員会について

## 【説明・協議1】 第18次共同研究の概要について

### 子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

### 【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

全ての子どもたちの可能性を引き出す  
個別最適な学びと、協働的な学び

# 【説明・協議Ⅰ】第18次共同研究の概要について

2020年代を通じて実現を目指す学校教育  
「令和の日本型学校教育」の姿

＼全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現／



- ✓ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
  - ✓ 各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている
- #個別最適な学び #協働的な学び  
#主体的・対話的で深い学び #ICTの活用



- ✓ 環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている
  - ✓ 子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている
  - ✓ 子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている
- #教師の資質・能力の向上 #多様な人材の確保 #家庭や地域社会との連携  
#学校における働き方改革 #教職の魅力発信 #教職志望者の増加

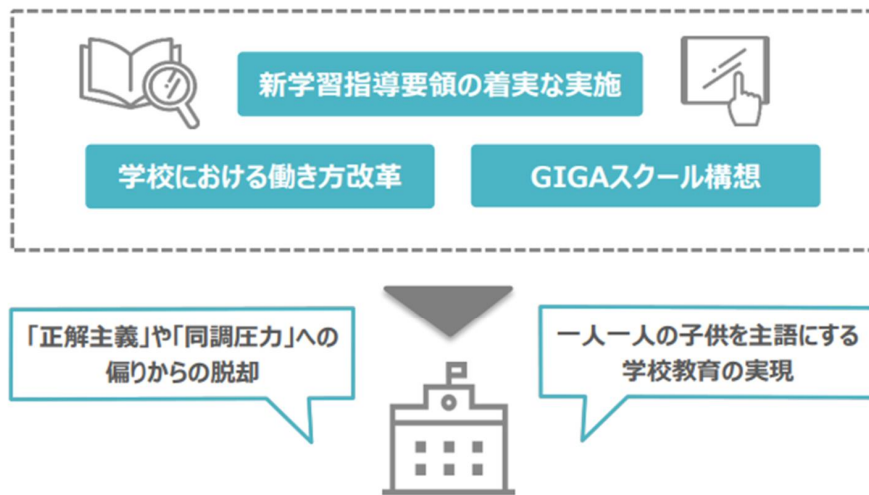


- ✓ ICT環境の整備により全国の学校で指導・支援の充実、校務の効率化等がなされている
  - ✓ 新しい時代の学びを支える学校教育の環境が整備されている
  - ✓ 人口減少地域においても魅力的な教育環境が実現されている
- #ICT環境の整備 #学校施設の整備  
#少人数によるきめ細かな指導体制

出典：「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」【総論解説】 令和3年 中央教育審議会

# 【説明・協議Ⅰ】第18次共同研究の概要について

## 第18次共同研究テーマ



＼「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる／  
新しい時代の学校教育の実現

一人一人の子どもを主語にする  
学校教育の実現に向けて

# 一人一人の子どもを主語にする学校教育の実現に向けて

## 【ねらい】

各教育研究所・研修センターがより連携・協働できる体制を整備し、学校支援のために活用する、個別最適な学びと協働的な学びの実践事例の収集・提供をすることにより、**子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての教職員の能力の向上に資する。**

## 【研究内容Ⅰ】

全ての子どもたちの可能性を引き出す

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

## 【研究内容Ⅱ】

子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

道研連加盟機関である各教育研究所・研修センターの

北海道教育研究所連盟第18次共同研究（令和5年度～令和7年度）推進計画

## 一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを  
支援する伴走者として

### 研究内容Ⅰ

全ての子どもたちの可能性を引き出す  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

### 研究内容Ⅱ

子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

【1年次のゴール】

- 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

集める

【1年次のゴール】

- 連携・協働の在り方について共有

【2年次のゴール】

- 1年次に収集した事例の評価・改善・実践

磨く

【2年次のゴール】

- 複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践・交流  
(道研連研究発表大会等)

第1回

1、2年次の研究内容・  
収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

授業の実践①

第2回

実践事例の協議・リーフレット(案)の検討

授業の実践②

第3回

実践事例の交流・リーフレット(案)の完成

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業の実践事例のよさを共有し、活用及び普及に向けた協議を通して、「授業のポイント」が伝わる実践事例及び普及啓発資料を作成する。

【3年次のゴール】

- 実践事例の普及・還元  
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

広める

第1回

連携・協働した事業の計画

第2回

実施方法の検討・事業の実践

第3回

事業の実践  
連携・協働した事業の実践交流  
持続可能な連携・協働体制の検討

第3回

連携・協働した事業の実践交流  
好事例のまとめ

各教育研究所・研修センターの連携・協働の在り方を計画・実施し、実践の成果や課題を協議する。また、持続可能な連携・協働の在り方を検討する。

ICTの効果的な活用

【3年次のゴール】

- 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及

## 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実に向けて

- 授業において大事にしたいこと
  - A 子どもが「自分（たち）で学び取る」授業
    - 目的に合わせた端末の使い方や学習スタイルの選択等、  
学び方を学べる工夫
  - B 子どもの「興味・関心」や「問い」を大事にした授業
    - 必要感のある課題設定や単元（題材）計画、教師の発問や  
声かけの工夫
  - C 子どもが安心して、進んで取り組める授業
    - 学習の土台づくり（望ましい人間関係の構築、学習ルール  
や基本的・基礎的な知識及び技能、ICTのスキル等）

- 1年次の研究を踏まえた実践事例の作成
  - ※資料に「授業において大事にしたいこと」をポイント  
として位置付けている。

メニュー		R6年度 実践事例バンク			
No	学年	教科 「単元（題材）名」	キーワード	作成機関	
1	小学校 第4学年	国語科「リーフレットで ほうこく」	・「自己調整力育成」に焦点を当てた児童を中心 とした授業づくりの工夫	宗谷教育 研究所	<a href="#">資料.pdf</a>
2	小学校 第5学年	国語科「表現の効果について、 考えを広げよう『音わた り』」	・ひとりひとりが主体的に読み取る、物語の世界	渡島教育 研究所	<a href="#">資料 ①.pdf</a> <a href="#">資料 ②.pdf</a>

※実践事例の周知の方法については、更に検討が必要  
(補足資料も提供できたらよい。)

# 一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを  
支援する伴走者として

研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

【1年次のゴール】

R5

- 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

集める

【1年次のゴール】

R5

- 連携・協働の在り方について共有

【2年次のゴール】

R6

- 1年次に収集した事例の評価・改善・実践

磨く

【2年次のゴール】

R6

- 複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践・交流  
(道研連研究発表大会等)

第1回

1、2年次の研究内容・  
収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

授業の実践①

第2回

実践事例の協議・リーフレット(案)の検討

授業の実践②

第3回

実践事例の交流・リーフレット(案)の完成

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業の実践事例のよさを共有し、活用及び普及に向けた協議を通して、「授業のポイント」が伝わる実践事例及び普及啓発資料を作成する。

【3年次のゴール】

R7

- 実践事例の普及・還元  
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

広める

第1回

連携・協働した事業の計画

第2回

実施方法の検討・事業の実践

連携・協働した事業の実践交流  
持続可能な連携・協働体制の検討

第3回

事業の実践

連携・協働した事業の実践交流  
好事例のまとめ

各教育研究所・研修センターの連携・協働の在り方を計画・実施し、実践の成果や課題を協議する。また、持続可能な連携・協働の在り方を検討する。

ICTの効果的な活用

【3年次のゴール】

R7

- 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及

# 一人一人の子どもを主語にする 学校教育の実現に向けて

子どもの主体的な学びを  
支援する伴走者として

研究内容1 全ての子どもたちの可能性を引き出す  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」

研究内容2 子どもの成長を支える連携・協働体制の構築

【1年次のゴール】

R5

- 収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

集める

【1年次のゴール】

R5

- 連携・協働の在り方について共有

【2年次のゴール】

R6

- 1年次に収集した事例の評価・改善・実践

磨く

【2年次のゴール】

R6

- 複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践・交流  
(道研連研究発表大会等)

第1回

1、2年次の研究内容・  
収集した実践事例(授業のイメージ)の共有

授業の実践①

第2回

実践事例の協議・リーフレット(案)の検討

授業の実践②

第3回

実践事例の交流・リーフレット(案)の完成

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業の実践事例のよさを共有し、活用及び普及に向けた協議を通して、「授業のポイント」が伝わる実践事例及び普及啓発資料を作成する。

【3年次のゴール】

R7

- 実践事例の普及・還元  
(道研連Webページの掲載・リーフレット等配付)

広める

第1回

連携・協働した事業の計画

第2回

実施方法の検討・事業の実践

連携・協働した事業の実践交流  
持続可能な連携・協働体制の検討

第3回

事業の実践

連携・協働した事業の実践交流  
好事例のまとめ

各教育研究所・研修センターの連携・協働の在り方を計画・実施し、実践の成果や課題を協議する。また、持続可能な連携・協働の在り方を検討する。

ICTの効果的な活用

【3年次のゴール】

R7

- 持続可能な連携・協働体制の構築に向けた改善・普及



## 【説明・協議Ⅰ】 目指す授業の方向性について

### <協議の視点>

- 「授業において大事にしたいこと」  
A～Cの具現化について、
  - ・ 大切だと思ふ教師の手立てや児童の活動（青）
  - ・ 授業で気を付けていること（赤）
  - ・ このような実践をしている（見たことがある）（黄）

### <協議の方法>

- ※自身の実践を振り返り、付箋に御記入ください。
- ※2年次の実践事例を参考に記載いただいても構いません。

個人思考 10分間

グループ協議 50分間

## 【説明・協議Ⅰ】 目指す授業の方向性について

### <協議の視点>

- 「授業において大事にしたいこと」  
A～Cの具現化について、
  - ・ 大切だと思ふ教師の手立てや児童の活動（青）
  - ・ 授業で気を付けていること（赤）
  - ・ このような実践をしている（見たことがある）（黄）

### <協議の方法>

- ※自身の実践を振り返り、付箋に御記入ください。
- ※2年次の実践事例を参考に記載いただいても構いません。
- ※進行役は各グループで決めてください。

個人思考 10分間

グループ協議 50分間

# 本日の内容

## 【説明・協議1】

- 第18次共同研究の概要について
- 目指す授業の方向性について

## 【説明・協議2】

- 第18次共同研究3年次に係る業務推進について
- 実践事例の作成にあたっての精査の視点について
- 第18次共同研究の今後の方向性について

## 【連絡・閉会】

- 第2回共同研究推進委員会について

## 【説明・協議2】 第18次共同研究3年次に係る業務推進について

### 年間スケジュール

5月13日(火)	【第1回 共同研究推進委員会】※集合開催
6～10月	・実践事例の作成 ・連携・協働した事業の実践及び第2回共同研究推進委員会の交流に係る説明準備
7月11日(金)	夏季所員学習会
8月28日(木) 8月29日(金)	【第80回北海道教育研究所連盟研究発表大会(胆振大会)】 ・研究発表
10月21日(火)	【第2回 共同研究推進委員会】※オンライン ・実践事例の協議・リーフレット(案)の検討 ・連携・協働した事業の実践交流、持続可能な連携・協働体制の検討
10月～12月	・実践事例の完成
11月17日(月)	冬季所員学習会
1月9日(金)	【第3回 共同研究推進委員会】※オンライン ・実践事例の交流・リーフレット(案)の完成 ・連携・協働した事業の実践交流、好事例のまとめ ・第19次共同研究に向けて
2月5日(水)	【連盟委員会】R7事業報告 R8事業計画提案

# 【説明・協議2】第18次共同研究3年次に係る業務推進について 年間スケジュール

5月13日(火)	【第1回 共同研究推進委員会】※集合開催
6～10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践事例の作成</li> <li>連携・協働した事業の実践及び第2回共同研究推進委員会の交流に係る説明準備</li> </ul>
7月11日(金)	夏季所員学習会
8月28日(木) 8月29日(金)	【第80回北海道教育研究所連盟研究発表大会(胆振大会)】 ・研究発表
10月21日(火)	【第2回 共同研究推進委員会】※オンライン <ul style="list-style-type: none"> <li>実践事例の協議・リーフレット(案)の検討</li> <li>連携・協働した事業の実践交流、持続可能な連携・協働体制の検討</li> </ul>
10月～12月	・実践事例の完成
11月17日(月)	冬季所員学習会
1月9日(金)	【第3回 共同研究推進委員会】※オンライン <ul style="list-style-type: none"> <li>実践事例の交流・リーフレット(案)の完成</li> <li>連携・協働した事業の実践交流、好事例のまとめ</li> <li>第19次共同研究に向けて</li> </ul>
2月5日(水)	【連盟委員会】R7事業報告 R8事業計画提案

# 【説明・協議2】第18次共同研究3年次に係る業務推進について

○学校○○科 ○○市教育研究所  
キーワード (例)「学習の個性化」を目指した○○の工夫

単元名 ○○○ 〔(教材名)○○〕 第○学年	内容のまとめ
---------------------------------	--------

1 単元の目標  
(1) ○○○～

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①○○○○○	①○○○○○ ②○○○○○	①○○○○○ ②○○○○○

3 指導と評価の計画(全○時間)

時間	学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1		・(例)①(観察・ノート)		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

4 本時案(○/10)

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

時	○学習活動・児童の反応	◇留意点 ☆評価
導入	○  ※本時の課題  ○	◇
展開	○ ・ ・ ・	◇ ☆
終末	○	◇ ☆

5 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業改善のポイント

○ (例)「学習の個性化」を目指した○○の工夫

・学習活動の精緻化

・単元計画の工夫

参考文献

## 【説明・協議2】 実践事例の作成にあたっての精査の視点について

### 1 単元（題材）の目標・評価規準について

- ・「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱がバランスよく記載されているか。
- ・目標と評価の観点が混同していないか。  
（学びに向かう力・人間性等⇔主体的に学習に取り組む態度）

### 2 指導と評価の計画について

- ・目標を具体化した学習活動が位置付けられているか。
- ・1単位時間に3観点を評価するなど、教師、児童生徒にとって大きな負担となる計画になっていないか。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面が単元のはじめや終わりだけに位置付いていないか。

### 3 「授業において大事にしたいこと」について

- ・「授業において大事にしたいこと」のA～Cの視点が記載されているか。

※A～Cの3つすべてを記載いただく必要はありません。

参考：「小・中学校教育課程編成（改善）の手引」 令和2～6年 北海道教育委員会

## 【説明・協議2】 第18次共同研究3年次に係る業務推進について

### <協議の視点>

#### ○ 研究内容1の普及・還元の方法について

- ・リーフレットについて  
（どんな内容を掲載するとよいか。リーフレットは何ページ程度がよいか等）

※域内における研修や校内研修等で活用しやすいリーフレット

- ・実践事例の補足資料について

グループ協議 20分間

<協議の視点>

- 教育研究所・センターの連携・協働体制の在り方について
  - ・すでに、他の教育研究所や研修センターと連携した事業に取り組まれているところは、現在の状況について
  - ・これから具体的な取組を進めていくところは、現在の状況や、これならできそうという取組について  
(①共同研究推進委員 ②教育研究所・センター)

グループ協議 20分間

本日の内容

【説明・協議1】

- 第18次共同研究の概要について
- 目指す授業の方向性について

【説明・協議2】

- 第18次共同研究3年次に係る業務推進について
- 実践事例の作成にあたっての精査の視点について
- 第18次共同研究の今後の方向性について

【連絡・閉会】

- 第2回共同研究推進委員会について

## 連絡

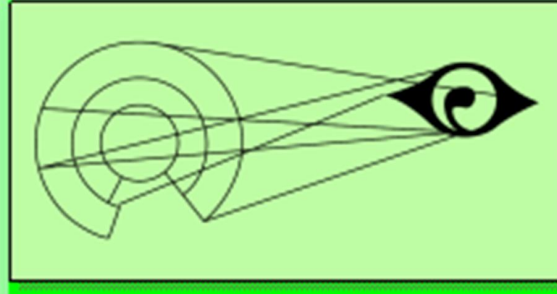
- 第2回共同研究推進委員会について  
日時：10月21日（火）14:30～16:30  
※オンラインで実施します。
- ・ 実践事例及びリーフレット（案）についての協議
- ・ 複数の加盟機関が連携・協働した事業の実践交流

御不明な点等あれば、教育課題研究部佐々木まで御連絡ください。（011-386-4524）

## 研究主幹挨拶



# 令和7年度（2025年度） 第1回共同研究推進委員会



期日 令和7年5月13日(火) 13:00～16:30

北海道教育研究所連盟  
共同研究推進委員会